

月刊

エネルギーフォーラム

No.694

10
2012
October

●特集

LPガス シフトを 巻き起こせ!

●緊急特集

亡国のシナリオ 「原発ゼロ」を 断罪する

●記者の眼

東電の命運を握る 「泉田知事」の見識

●今月の話題

日本から原子力技術が なくなる日

報道特集

課題山積

「除染」への 大いなる疑問

早稲田環境スマートシステムズ

LPガス業界で導入が拡大中!
iPadを活用した販売・保安情報管理システム

④画面上の商品を押せば、すぐに見積書が作成できる ⑥細かい記入項目も拡大しての入力が可能。「可」「否」「不要」のボタンを押せば書類に反映される ⑤モバイルプリンターと無線で接続し、印刷の作業効率がさらに向上した



顧客先を回って汗をかく営業マンや保安点検調査員の業務を助ける便利なシステムが登場した。早稲田環境スマートシステムズ（東京都新宿区）が開発した「iPad販売・保安情報管理システム」だ。システム名の通り、iPadを使って業務のスムーズな進行をサポートする。特徴的な機能は主に次の3点だ。

- ①保安点検調査業務を受託する保安センターの調査員が訪問先を回る際、Googleマップを使ってiPadの画面上に訪問先へのルートを示せば、効率よく回ることができる。
- ②キーボード操作の苦手なユーザ支援機能として手書き文字自動認識機能を搭載。専用ペンでiPadの画面に普通のペンで書くような感覚で文字を書けば、そのまま書類ができ上がる。
- ③屋外でも普通紙・A4サイズのカラー印刷ができる。

システム開発は今から十数年前のこと。「LPガスの埋設管の場所を地図上に表示できないかと思ったことがきっかけだった」。システム開発部の野原将史部長はこう振り返る。また、LPガス事業者はガス漏れなど急な呼び出しへの対応といった予定外の仕事の発生も多々あり、限られた時間内に営業・販売業務を効率的に行う作業の効率化が求められていた。

「多忙な日常の業務の中で数多くの種類のデータを正確に収集し保管・検索する作業を、「簡単な操作で、正確な書類作成ができるシステムを開発して、作業が楽になるように」（野原部長）との思いから、システム開発を繰り返しながら、LPガス事業者の業務に必要なさまざまな機能を搭載したシステムを完成させた。

販売面では、iPadにダウンロードしたガス器具メーカーの商品カタログを画面に表示。顧客が欲しい商品を画面上でタップするだけで見積書を作成し、即座に顧客に提示できる販売支援ツールも開発した。さらにガス器具の修理依頼書を作成してメーカーのサービスセンターへ直接メール送信ができる。現在、顧客への新商品やサービスなどのプレゼンテーションを動画で紹介・提案するシステムの機能も最終調整中だ。

保安点検調査では、記入項目がびっしり並んでいる調査票も、画面上の入力したい項目を手で触れると、その部分が拡大される。入力する言葉が選択肢ボタンで表示されており、そこを押せば書類に入力ができ、キー操作をする必要がない。入力データはそのまま会社のホストコンピューターに保存されるので、入力し直す二度手間もなしだ。

また、定期保安点検調査票や供給開始時の保安点検調査票、第14条書面交付書類や認定保安機関連絡通知書など、A4サイズの用紙も印刷でき、これまで課題だったシステム化も実現できる。

iPadは屋外でも見やすく、画面の拡大縮小も自由自在だ。20数人程度が出席する会議に対応した「iPad会議支援システム」も既に開発されており、会議時間の短縮化や、資料に使われる紙の節約にも役立つ。

iPadの普及が進むにつれ、システムを導入するユーザーも続々と増えている。電力会社や都市ガス会社などの業務にも対応は可能。iPadシステムの活躍の場は広がっていきそうだ。